CAMBRIDGE

検定教科書『*Cambridge Experience 1*』を使って

佐賀県立佐賀北高等学校（佐賀）
英語科　江頭隆介先生
(2023 年春)

本校は、普通科と芸術科があり、生徒は大学進学等の目標に向けて日々学習に取り組んでいる。今回は Cambridge Experience 1 の教科書を採択した理由と今年度1年生（1クラス約40人×7）の英語コミュニケーションⅠ（3単位）の授業で一年間使用してみた率直な感想をお伝えしたい。

1　採用の理由

結論から述べるとこの教科書を採用した理由は下記の3点である。

・内容のおもしろさ
・文法＋語彙＋4技能のバランス
・英語の量

本校には、1年生で CEFR B1 に到達するようなレベルの生徒もいれば、CEFR A1 のレベルの問題があやしい生徒もおり、習熟度は様々である。そのような中でまずこの教科書に惹かれたのが「内容のおもしろさ」である。まず動画や音声教材に工夫が凝らされており、英語が全部聞き取れなかったとしても楽しめる内容になっている。また、生徒が英語で会話練習する際のトピックについても、例えば、Which person's bad habits irritate you most? や What were your big fashion mistakes?など非常にカジュアルな内容もあり英語力とは関係なく生徒が話したくなるような内容となっている。

2つ目に、まず各 Unit「ごりごりの文法からスタートする」というのが大きい。文法をがっつり扱った教科書が少ない中、まず超基本の文法問題が豊富に用意されている。様々な問いがあり、各文法項目で生徒が間違えやすいポイントがよく考えられている。また、各 Unit は Technology や Health など大きなテーマがありそれぞれの分野で特化した英単語を Vocabulary のセクションで体系的に学ぶことができる。そして、学習した文法項目、語彙を使って、4技能の学習を進めていくので自然な流れで生徒は文法力、語彙力、4技能をバランスよく高めることができる。

最後に、英語の量である。大学入学共通テストを見据えると英文の量に慣れておくことは避けて通れないだろう。教科書を数ページめくってもらうと、1ページの中の英文の量が極めて多いことがわかる。1文ずつ読んでいくだけで生徒はかなりの量を読むことになる。

以上の3点がそろう教科書は他にはなかったので、この教科書を採択した。

Where your world grows

© Cambridge University Press & Assessment 2023

2　実践例

本教材を用いて実践したこと、授業での生徒の様子・変化、気になる成績についてお伝えしたい。結論から言うとポジティブなことだらけであった。

実践と呼べるかは分からないが、今年３人の担当者と共通理解して徹底したのは「Teacher's book の通りに進める」ということである。つまり、単語リストを作ったり、ワークシートを新たに作ったり、パワーポイントで提示用の教材を作成したり、教員が新たに教材を作ることがなかった。その代わり Teacher's book と教科書を読みこんだり、動画や音声教材を視聴したりといった予習に時間を注ぐことができた。授業の準備が非常に効率化され、「この活動はうまくいった」「○○という生徒が～と表現した」「こういう別解もあるよね」など担当者の間で授業内容について共有する余裕が生まれ授業の中身をより良くできたように思う。

考査問題やパフォーマンステストも Teacher's book に用意されており大変重宝した。量や種類が豊富で、そのままでも使用できるし、クラスの規模や学力に合わせて多少の手を加えれば各学校の実情に合わせたテスト作成も可能である。例えば、リスニングテストに関しては問題数を減らしたり、聞く回数を3回にしたりするなどして生徒の習熟度に合わせてテストを作成することができた。

授業中の様子はどうかというと、ペアで積極的に英語を使ってやり取りを楽しんでいる。担当者の間でよく話すのは生徒が皆アクティブ（寝ない）ということである。英語力に関係なく皆が教材を楽しめているのではないかと思う。また、辞書を積極的に使用する生徒が増えてきたように思う。単語リスト等はないので、生徒は分からない単語は辞書を引くしかない。また、一度学習した単語が後のユニットで出てきて、生徒が何度も新出語句に出会うようになっており、生徒は「これ前でてきたよね」などと言いながら辞書で確認している。

以上今年一年間振り返ってみたが、今のところうまく活用できているのではないかと思う。本教材は公立高校でも十分導入可能であると考える。気になる成績に関しては、模試の偏差値を過去5年間で比較すると1番伸びてきている。楽しく英語を学べていつの間にか入試レベルの長文もそれなりに読めて、聞けるようになり、卒業後は英語が使えるようになる、ということが実現可能な教材かもしれません。

授業中の様子

Where your world grows

© Cambridge University Press & Assessment 2023